

# 猫の慢性腎臓病の診断と管理

## - ISFM ガイドライン -

**Andrew Sparkes** BVetMed PhD DipECVIM MANZCVS MRCVS

International Society of Feline Medicine, UK

**Sarah Caney** BVSc PhD DSAM (Feline) MRCVS

Vet Professionals, UK

**Serge Chalhoub** BSc DVM DipACVIM

Faculty of Veterinary Medicine, University of Calgary, Canada

**Jonathon Elliott** MA VetMB PhD CertSAC DipECVPT MRCVS

Department of Comparative Biomedical Sciences, Royal Veterinary College, UK

**Natalie Finch** BVSc PhD MRCVS

School of Veterinary Sciences, University of Bristol, UK

**Isuru Gajanayake** BVSc CertSAM DipACVIM DipECVIM MRCVS

Willows Referral Service, Solihull, UK

**Catherine Langston** DVM DipACVIM

Department of Veterinary Clinical Sciences, Ohio State University, USA

**Hervé Lefebvre** DVM PhD DipECVPT

Clinical Research Unit, National Veterinary School of Toulouse (ENVT), France

**Joanna White** BVSc DipACVIM PhD

Small Animal Specialist Hospital, Sydney, Australia

**Jessica Quimby** DVM, PhD, DACVIM

Department of Clinical Veterinary Sciences, Colorado State University, USA

## 要約

**臨床的意義:** 慢性腎臓病(CKD)は高齢猫に最もよく診られる疾患の一つである。多くの猫のCKDは進行性であり、様々な臨床症状や臨床病理学的変化を伴う。このISFMコンセンサスガイドラインは、専門医及び研究者らをパネルとして迎え、複雑な本疾患の診断と管理の臨床的指針を提唱することを目的としている。

**臨床現場の課題:** CKDは猫に多い疾患ではあるが、臨床症状は個々によって様々である。従って、CKDの猫には慎重かつ頻回の評価が必要であり、それぞれに応じた適切な治療が必要である。CKDに関連した問題への対処と生活の質(QOL)の向上に加え、治療によって病期の進行を遅らせ延命効果が期待される。患者にとって、生活の質を維持することは最優先事項であるが、複数の治療が施されている場合や治療の優先順位をつける必要がある場合において、個々の患者に対して最も有益となることは何かを理解して優先させる必要がある。

**科学的根拠:** このガイドラインを作成するにあたって、パネルは慎重にこれまでに報告されている論文の再評価を行った。本ガイドラインで推奨されている内容は、獣医学領域においてこれまでの優れた臨床研究によって恩恵を受けてきた分野であることから、今後さらなる検討によって改訂される可能性がある。本稿では、これまでに報告されているデータを元に、それぞれ異なる治療的介入のエビデンスの質を科学的根拠に基づき評価しており、猫のCKDの治療を選択する上で一助になれば幸いである。